


わたしたちが運ぶのは未来です

 **運輸省**



# みなと しみず

**発行所**

第五港湾建設局  
清水港湾工事事務所  
御前崎港事務所  
下田港事務所



出初め式の梯子乗り



清水商工会議所 提供  
清水市 杉山 満さん 撮影

## 新年を迎えて

所長 藤田 郁夫

あけましておめでとうござ  
います。

皆さん新しい抱負を胸に新年を迎えられたこととお察し申し上げます。我が国をめぐ  
る社会・経済情勢では年初か  
らあまり景気のいい話は聞か  
れませんが、こういう時こそ  
気持ちを引き締めて、課題を  
一つ一つ解決し、着実に前進  
していきたいと考えています。

さて、昨年末、清水港では  
待望久しい新興津コンテナター  
ミナル着工に向けて、実施設  
計調査費が予算政府原案とし  
て認められました。今後は国  
会の審議を経て国の予算とし  
て認められる手はずになりま  
す。私どもでは平成10年度中  
に、ターミナル建設に必要と  
なる現地調査・設計等を実施  
し、またターミナル建設上必  
要となる埋め立ての免許取得  
を済ませたいと考えています。  
順調にいけば平成11年度には  
実際の建設工事にとりかかり、  
その後4年を掛けて平成15年  
には1バース目を供用開始す  
る予定です。そのため、港湾  
管理者である静岡県はもちろ  
ん地元清水市並びに関係各方  
面の方々の十分のご理解とご

協力を得て参りたいと思いま  
す。

コンテナは現代の物流の主  
役です。コンテナの集まる  
ころ人も、情報も、商機能も  
集まってきます。しかし、コ  
ンテナはスピードが命です  
から決められた時間どおりに、  
効率よく、確実に処理されな  
ければなりません。それが出  
来なければ他所へ行ってしまう  
います。清水港は我が国を代  
表する大港湾ですが増加し続  
けるコンテナ貨物に対応出来  
ていないのが現状です。この  
まま行くと清水港のコンテナ  
は他港へ逃げていってしまう  
恐れさえあります。その意味  
でこれから建設される新しい  
コンテナターミナルは清水港、  
清水市、静岡県にとって死活  
問題ともいえる重要な役割を  
担うこととなります。国際水  
準のターミナルであること、  
横浜・名古屋・神戸といった  
県外主要港とも十分に競争で  
きる効率を有すること等から  
その完成・供用開始が1日も  
早く望まれるところです。

また、御前崎港、下田港に  
つきましては、大変厳しい国  
の財政状況ではありますが、



昨年に引き続き着実に事業を進めて参ります。今年には御前崎築港50周年に当たります。このおめでたい時にあたり、職員一同気持ちを新たに、一層の工事進捗・安全に努めて参ります。下田港では当所が実施している沖防波堤のほかにも、海岸整備事業や民間資本をも入れた新たな事業が動きだそうとしております。ともすれば景気停滞にばかり目が行きがちですが、静岡県内の港湾でもこのように21世紀への胎動が確実に始まって参ります。明日を睨んで、新年とともに心機一転前進して行きたいと思っております。

**御前崎港だより  
新年を迎えて**

平成9年は、御前崎港が大いに脚光を浴びた年だったように思います。新しい港湾計画に基づく工事が始まり、直轄工事では将来の多目的国際ターミナルの中心となる静岡県下初の14m岸壁の築造工事が始まりました。また、御前崎港に寄港している定期航路「九州急行フェリー」の週4回寄港が週7回の寄港となり輸送力がアップしました。加

えて、8月からはホンダ・スズキによる自動車の輸出も始まりました。7月には、「海の日」の記念事業として「御前崎港シンポジウム」を開催しました。このように、イベントや話題が豊富な元氣な御前崎港の姿を地域の方々や管内他事務所のみなさんに知ってもらうため、御前崎港事務所では情報誌「空つ風通信」を発刊しました。いろいろ出来事を並べましたが、昨年はやはり元氣な御前崎港が肌で感じられる1年でした。

さて、今年平成10年は、御前崎港事務所が開設され20年を迎える記念すべき年です。今年の工事は、岸壁(14m)工事が中心となりますが、御



前崎港事務所開設20年、御前崎築港50年と節目という年に元氣な御前崎港がより元氣になるよう、この1年御前崎港のさらなる発展の一翼を担うつもりで御前崎港事務所職員一同気持ちを新たにがんばっていききたいと思っております。

**下田港だより  
新年を迎えて**

伊豆周辺海域は複雑な地形、厳しい海象のため海難事故が多く、昨年末にも波浪注意報が出ていた12月9日、下田市須崎爪木崎沖合で貨物船同士が衝突し、幸い大惨事にはならなかったものの燃料の重油が流れ出す事故が発生しました。また、荒天時は下田港に避難する船舶も多く(写真は昨年末下田港の風待ち避泊状況)避難港の整備促進が期待されるところです。

下田港では増加する海上交通の安全性向上と、近い将来の発生が懸念される巨大地震による津波から下田市民の生命・財産、歴史的文化遺産などを守るため外防波堤の建設を昭和55年度より直轄で実施してきました。今年、平成元年に第一函目のケーソンを

据え付けて以来、丁度10年目の節目の年でもあり、地元からも外防波堤の早期完成が期待されているところです。

外防波堤は、現在までに西防波堤の消波ブロック被覆堤構造タイプ13函・260mと新構造の消波ブロック内蔵双胴型タイプ1函・22m、合計14函・延べ延長280mが暫定天端+5mで完成しています。双胴型ケーソンの2函目は据付を待つて仮置中であり、第3函目は今年7月末完成に向けて順調に製作しているところです。防波堤の副次的効果として藻場の創出や魚礁としての効果等は確認されているところです。防波堤は自然公園内にあることから今後景観についても十分配慮した環境に優しい防波堤整備を引き続き促進していきます。

また、港内の柿崎海岸線地区で整備中のエココースト事業、今年から工事着手する外ヶ岡地区のリーディングプロジェクト「開国のまちづくり」事業や武ヶ浜地区で計画されている再開発事業は、県防災船TSLの就航を契機とした新たな中継拠点としての位置付けなどと合わせて、魅力のある下田市を再生するための起爆剤としての役割を担うこととなります。これらの空間の安全を確保するためにも下

田港外防波堤の早期整備が望まれています。本年も下田港事務所では「市民に親しまれ、地域とともに発展する港づくり」をめざし引き続き努力してまいります。





# 平成9年 清水港十大ニュース

御前崎港シンポジウム  
開催 (7/24)

4  
位



御前崎港女岩地区水深  
14m岸壁着工式 (3/24)

3  
位



清水市漁協  
清水港港湾計画  
に同意 (2/7)

1  
位



静岡県地方港湾審議会  
により港湾区域拡張承認  
(12/19)

御前崎港広報誌  
「空っ風通信」創刊 (5/15)

7  
位



伊豆地域市町村長  
懇談会開催 (10/22)

6  
位



静岡地域市町村長  
懇談会開催 (10/16)

5  
位



清水港みなとづくり  
見学会開催 (7/28)

10  
位



台風7号により  
下田港災害を受ける(6/20)

9  
位



御前崎港港湾行政  
体験学習開催 (7/17)

8  
位



## 藤田所長の講演会開催

清水港の港湾関連業界25社  
で組織する「清水港湾連絡協  
議会」の主催する講演会が去  
る12月11日、清水マリニビル  
にて開催されました。

講師は当工務事務所の藤田  
所長。テーマは「御前崎港の  
現況と今後の展望」と題して  
約1時間。はじめに平成9年  
8月に作成した「御前崎港・  
新国際物流ターミナル」のビ  
デオ上映のあと、清水港と御  
前崎港の現状及びこれからの  
整備の概要が説明されました。  
さらに、清水港と御前崎港の  
競争については、駿河湾の中  
で補完的な機能分担の必要  
性と、両者一体となった県外  
港との競争の激化の可能性が  
指摘されました。

また、最近の経済社会情勢  
にもふれ、国の財政事情の悪  
化に伴う公共事業の7%削減、  
5ヶ年計画の7ヶ年計画への  
変更等の説明がなされ、清水  
港・御前崎港の予算確保に向  
けて、

関係者  
の努力  
の必要  
性を訴  
えまし  
た。





### ペルー共和国水運総局長 清水港・御前崎港を視察

ペルー共和国といえばアルベルト・フジモリ大統領、アンドンス山脈、ナスカ平原の地上絵が思いつかれますが、つい最近では日本大使公邸占拠事件が全世界に衝撃を与えたことでも有名です。

その国の水運総局長、エウセビオ・ベガ・ブエサ氏が去る12月8日御前崎港、12月9日清水港を視察されました。

来訪目的は、チリ国境に近いペルー南部に隣接して存在するマタラン港とイーロ港の機能分担や競争関係を検討するため、清水港と御前崎港の状況を視察し、関係者と意見交換するものであります。

御前崎港では牛田所長が、清水港では藤田所長、池谷工事課長が説明に当たり、通訳を通して熱心に耳を傾けていました。



### 黒田五建局長 「ビオトープ」見学

最近、ビオトープという言葉が多く目につくようになりましたが、ビオトープとは、「動植物の生息空間」を意味するドイツ語で、動植物が生育するための安定した生活環境が維持された場所のことです。

清水港内にある中部電力新清水火力発電所内には、平成5年4月からビオトープ実証研究施設が設置され研究が続けられておりますが、昨年12月15日、黒田局長の清水港来所の折りにビオトープを見学されたものです。

当日は穏やかに晴れ渡り富士山もその勇姿を見せるなど、局長一行を歓迎するかのようなど日和のもと、同発電所の鈴木総務課長からビオトープ内に生息する動植物等の生態について説明を受けました。

ビオトープ内で、生い茂る森には四季を通して小鳥がやってくるこ

と、その樹木の樹液を求めてコガネムシ・カブトムシ等の昆虫が集まり、また、池



や小川にはトンボやチョウチョが飛び交い、水中にはオタマジャクシ・メダカ・タニシが棲み、夏にはホタルが乱舞するとのことで、まさに生物にとつての安定した生活環境であることがわかります。

### ◆ 清水の史跡 ⑬ ◆ 琉球王子の墓

琉球王国は慶長14年(1609年)、徳川家康の命に基づく薩摩藩の攻撃をうけ数日で降伏し、それ以降薩摩藩の支配下に組み入れられました。

それにともない琉球王国は翌年5月、幕府への親善使節を駿府と江戸へ送ることとなり、国王及び王子が駿府へ来ました。しかし駿府での仕事を終えた直後王子は突然病に倒れ、30余年の生涯を駿府で閉じました。



王子の亡骸は、当時外交的役割を果たしていた興津の清見寺境内に埋葬され、その後琉球の人達は、東海道を通るときは必ず清見寺に立ち寄り王子の霊を慰めたとのことであります。

### 人事異動 平成10年1月1日付

| 氏名   | 発令事項    | 現職     |
|------|---------|--------|
| 岩田真人 | 用度課契約係長 | 庶務係長   |
| 舟戸 睦 | 庶務係長    | 労働厚生係長 |
| 大村良子 | 労働厚生係長  | 庶務係主任  |
| 打田弥生 | 庶務係     | 経理課    |

### 清水港への入港 客船・帆船案内

|  |   |   |
|--|---|---|
| <p>飛鳥(客船)</p> <p>2月22日(入港・出港)</p> <p>横浜・清水クルーズ</p> <p>10月14日(入港・出港)</p> <p>チャータークルーズ</p> | <p>ニユーゆつこびあ(客船)</p> <p>3月23日~24日(入港・出港)</p> <p>第14回洋上テレシ寺子屋</p> <p>4月1日(帰着)</p> <p>第14回洋上テレシ寺子屋</p> | <p>成臨丸(帆船)</p> <p>4月9日~13日</p> <p>プライベートチャーター</p> |
|--|---|---|

### 管内の動き

- 1 宮城島清水市長(ハイイロ)打ち合わせ
- 2 管内主幹部長会議
- 3 加藤フェルケル館長(ハイイロ)打ち合わせ
- 4 山田商工会議所会頭(ハイイロ)打ち合わせ
- 5 広島商船高等専門学校助教授清水港見学
- 6 下田港海岸エコーシステム計画調査幹事会
- 7 ペルー国水運総局長御前崎見学
- 8 ペルー国水運総局長清水港見学
- 9 鈴木館長(ハイイロ)打ち合わせ
- 10 久田アト(協会)会長(ハイイロ)打ち合わせ
- 11 管内工務工事課長会議
- 12 清水港運送協賛会講演会
- 13 松井静岡新聞社長(ハイイロ)打ち合わせ
- 14 遺贈羽衣ボアル女将(ハイイロ)打ち合わせ
- 15 五建(ハイイロ)局長対談
- 16 業務改善検討会
- 17 清水港地方港湾審議会新事業会
- 18 下田港海岸エコーシステム計画調査委員会
- 19 静岡県清水港F&T事業推進委員会
- 20 中部圏フォーラム in 静岡
- 21 清水港地方港湾審議会
- 22 清水港津波防災メーソション検討会
- 23 清水港開港100周年の会運営委員会
- 24 御前崎田新谷区長外御前崎港見学
- 25 1月
- 26 清水港運送関係7団体名刺交換会
- 27 清水静岡商工会議所合同同窓会
- 28 清水市消防出初式
- 29 新春賀詞交換会
- 30 清水港津波防災メーソション委員会
- 31 ベイス委員会
- 32 J-C-A研修生港見学

＊発行所＊  
清水港湾工事事務所  
〒424-022 静岡県清水市日の出町七一  
TEL (0544) 335-2141 四六代